

産業構造審議会保安・消費生活用製品安全分科会
電力安全小委員会（第25回）－議事要旨

日時：令和3年7月20日（火）15：00～17：00

場所：オンライン開催

出席者

＜委員＞

横山委員長、青山委員、岩本委員、柿本委員、熊田委員、曾我委員、西川委員、福長委員、前田委員、宮島委員、若尾委員

＜経済産業省＞

太田技術総括・保安審議官、田上電力安全課長、古郡電気保安室長 他

議事概要：

（1）電気保安規制に係る制度改正の検討事項について

＜委員等からの主な御意見＞

- ・保安人材の減少についてはスピード感をもって進めていくべき。高度な機器を用いて人不足の対応をしてほしい。
- ・人材確保にあたっては、洋上風力などの注目を浴びている分野にも関わりうる職種である点のアピールを含め、若い人に対し業界の魅力発信を図るべき。
- ・高経年化設備の増加、人手不足、再エネ設備の連携拡大など保安業務に係る多くの課題がある中、制度見直しについては保安に関する経営資源の有効活用につながる。
- ・新技術を見据えた技術基準等の整備は、2050年カーボンニュートラル実現に不可欠。

＜事務局からの主な回答＞

- ・人材に関する以前の対策が功を奏しているかについては、実務経験年数等の見直しを今年の4月に改正したばかりなので、改正による影響等をまずは検証していく。
- ・水素・アンモニア発電については、事業者がどのような技術や設備を導入するかを調査したうえで、技術的課題を整理していきたい。

（2）近年の電気設備自然災害等への対応について

＜委員等からの主な御意見＞

- ・設備の保安停止など、事故のインパクトをいかにおさえるかといった運用面も大事。
- ・情報の水平展開を丁寧に行い、未然に事故が防止されることを期待。また事業者のみならず、一般の方にも広報いただきたい。
- ・ハザードマップ等を用いた再エネ設備のリスク分析、森林の保水力を低下させるようなメガソーラー開発への対応について、関係省庁と連携して強化すべき。
- ・重要施設リスト化の進捗状況について、もし進まない課題があれば早急に解決が必要。

＜事務局からの主な回答＞

- ・情報の展開については、HPやツイッターを活用して、国民への周知を工夫していく。

・太陽光に対する土木的な基準については、土砂流出の観点で2020年に技術基準は強化済み。一方、土砂災害について国民から不安な声があるため、政府全体の検討方向が決まれば、ご報告させていただく。

・重要施設のリストについては、自治体・電力ではリストは作成していても、自治体の業務状況によりその突合が進んでいないところがある可能性。進捗していない地域においては、監督部を通じてしっかり連携できるようにしていきたい。

(3) 令和2年度にNITEが実施した電気工作物事故の調査等に関する取組について

＜委員等からの主な御意見＞

- ・保安力向上のためには、実際に発生したトラブルや事故から知識を得るかが重要。そのため、事故情報の収集や立入検査等における工夫が必要。
- ・事故情報をいかに整理し、水平展開していくかも重要。

＜事務局・NITEからの主な回答＞

- ・NITEにおける事故情報の収集・分析で特徴的な点は、事故を起こした実機の調査を実施していること。
- ・事故の教訓に関する水平展開は、保安関係団体向けのセミナーや電気主任技術者向けの説明会を通じ提供。情報提供で工夫すべき点があれば、取り入れていく。

(4) 民間規格評価機関における民間規格等の評価の実施状況について

- ・日本電気技術規格委員会において、民間規格の評価、承認が適切に行われていることを確認。

＜委員等からの主な御意見＞

- ・運営の枠組みや手順は適切に実装されつつあり、プロセス評価委員会による独立したチェック体制も奏功している。
- ・今後はプロセスのモニタリングを維持しつつ、評価者個々の経験差による属人性の排除や、評価結果の品質の維持をどのように行うのかが必要。
- ・今後、JESC以外の民間規格評価機関も期待される。

＜事務局・JESCからの主な回答＞

- ・技術評価書としてとりまとめ、専門部会から提出された資料をもとに確認を行っていく。1時間程度は議論をしている。技術評価書にて明確の電気設備の基準への適合性や、最新知見について確認などを実施している。
- ・現状、JESCは電気設備に関する技術基準についてのリスト化が認められており、火力・水力・風力・太陽光といった基準も審議はできるがリスト化はできない。

問い合わせ先：

経済産業省産業保安グループ電力安全課
電話：03-3501-1742